

特 集

心豊かな生き生きとした

生涯教育の推進



生涯教育推進本部がスタート（県教育庁社会教育課内）

一、はじめに

「人生八十年」と言われる今日、人々は、この限りある人生を“いかに生きるか”を問い合わせ始めています。この“いかに生きるか”は、単にハウツーものの処生のすべてを考えるということではなく、“生き方”そのもののとらえなおしであり、内面的、質的な充実を考えようというものである。

この傾向は、ここ数年来、本県においても県民の間であらわれはじめ、さまざまな模索が各方面で続けられてきました。この動向にあわせるように本県教育委員会でも、いわゆる「生涯教育」の調査、研究が続けられてきました。これらの県民の要求や研究の成果をもとに本年四月、「生涯教育推進本部」がスタートしました。

生涯教育について紹介します。

(1) 新しき理念 — その提倡は—

生涯教育という言葉がはじめて世界的に注目されたのは、一九六五年ユネスコ本部で開催された第三回「成人教育推進国際委員会」においてであった。当時、ユネスコ本部成人教育課長をしていたフランスのポール・ラングランが

人は生涯のさまざまな時期においてさまざまなことを学びます。そしてそれが「心豊かに生き生き」と生活する糧となります。以下、二二百万県民の心のふれあう学習社会の形成のために、この“学ぶ”ことの内容や場所あるいは情報の提供等、生涯教育のさまざま

- ① 科学技術の進歩
- ② 社会構造の変化
- ③ 余暇時間の増大

等から、生涯教育の必要性を提唱し、その理念は「人間の一生を通じての可能性の追求であり、各自が個性を伸長し、自己実現を図っていくのを援助するプロセス」であるとした。

